

# 誰もが自分らしく暮らしたいける 地域づくりへ向けて



今回の講座には、区内10地区から18名の参加がありました。

地区連合自治会町内会や地区社会福祉協議会、地区民生委員児童委員協議会など所属を別にしての者同士が、約3か月にわたり共に体験し、それぞれの課題を共有し、そしてわがまちの未来を語り合いました。

また講座全体を通して、視察やグループディスカッションには区内地域ケアプラザから生活支援コーディネーターが参加。受講生と意見交換する場面も多く見られました。

すでにサロンを運営している方、これから生活支援ボランティアグループを立ち上げる方、地域食堂を準備中の方など、それぞれの活動状況はさまざまですが、既存の価値観に縛られることなく、誰もが自分らしく暮らしたいける地域づくりへ向けて、第一歩を踏み出します。



## 講師からの応援メッセージ

各地を訪問され、最終回に発表された感想は実にいきいきしたものでした。でも、やる気の方、本当にできるのか、という当惑もあったようです。

訪問先の活動も一朝一夕でできたものではありませんし、すばらしいリーダーだけですんでいるものでもありません。みなさん、とくにそのことは分かっている、いろいろ作戦を考えていらっしゃる、というのが、私の得た感触です。みなさんには、一緒に学んだ仲間がいます。時にまた、集まって、交流しながら、ご自分の地域でぜひきらっと光るいい活動をスタートさせてください。



# 共に支えられ 生きていく



住民が主体的に地域課題を把握して解決を試みる仕組みづくりに向けて



## 平成30年度 新あさひみらい塾 報告書

横浜市では、地域課題が多様化するなか、平成26年度より、協働の「地域づくり大学校」事業に取り組んでいます。旭区ではこれまで、受講生が見学会など様々な体験を通じて気づきを高め、地域で活動するきっかけをつかむことを目指して「あさひみらい塾」を開催。そして平成30年度は、身近な困りごとや生活課題によりそい、支えながら、住み慣れた地域で自分らしく暮らしたいけることのできる地域共生社会の実現に向け、旭区役所と旭区社会福祉協議会の協働による「新あさひみらい塾」を開催しました。



★第1講★ 福祉の実情と今後の考察テーマを理解する



**講演** 講師:社会福祉法人中央共同募金会 常務理事 渋谷篤男氏  
 社会はいま、大きく変化しています。家庭の機能が低下し、地域社会の機能も脆弱化していくなかで、さまざまな社会的孤立が生まれています。しかしそうした課題に対して、現在の社会福祉システムは十分に機能していません。住民でなければ解決できないこと、ふさわしいこととは？そして、活動する本人にとっての意義とは？ これからの講座を通して考えてみましょう。



★第2・3講★ 多様なサロンのあり方と自然な見守りを学ぶ



**実践者から学ぶ** 神奈川区では、一部地域で町内会自治会単位の「住民支え合いマップ」をつくる中で困りごとを抱える人や地域の課題が見えてきています。その作業を通して住民の中にご近所さんを心配する気持ちが生まれ、大町・七島地区では「カフェ七島みなみ」が誕生しました。菅田地区でもマップづくりからサロンが生まれ、さらに「ここに来られない人が行ける場所にサロンを作ろう」という気持ちの高まりから自宅ガレージを使った「あおぞらサロン」が誕生しました。スタッフの中には80歳以上の方や、自らも心配事を抱える方もいますが、気負うことなく、自らも活動を楽しんでいます。情熱と行動力あふれるお二方のお話から、制度では対応できないニーズに応える住民ならではの地域活動の意義を学びました。



**カフェ七島みなみ**

町内会館で月一回開催。「用意された催しをする」場ではなく、お茶を飲みながらたのおしゃべりを楽しむ場です。近所の方が出たり入ったり気軽に参加し、声をかけ合っています。参加者がいてもいなくても開くことが大切であり、「誰も来なければスタッフだけでもいいじゃない(笑)」、このゆるさが長続きの秘訣と感じました。



**菅田南町あおぞらサロン**

造園会社の車庫で月一回開催。職人さんが出かけている時間帯を利用して、手作りの品や庭のお花を持ち寄り、飾り付けとおしゃべりを楽しんでいます。散歩中の夫婦が自然と入ってきたり、ウォーキンググループのコースになっていたりと、開放的な環境は敷居が低く、様々な人々が出会い、憩える場所となっています。



**なごみていサロン**

サービス付き高齢者向け住宅「和み邸・横浜」で月一回開催。建設前からサロン開設を呼びかけて実現しました。ホテルのような趣で、参加者はおしゃべりして月に一度の社交場にお出かけすることを楽しんでます。他のサロンから近い場所ですが、多様なサロンがあちこちにあることの必要性を実感しました。



**あおぞらサロンはら**

個人宅の庭で月一回開催。坂道の多い地域の中にあり、近所の方々の大切な拠り所になっています。菅田地区にはサロンが10カ所あり、そのうち6カ所があおぞらサロンです。「わざわざ施設を確保しなくても、やろうと思えば個人の庭でもできるんだ」という大きな気づきを得ました。



★第4・5講★ 一人ひとりに寄り添った支援・解決のための住民と専門職の連携を学ぶ

実践者から学ぶ



サポートはますか(浜須賀地区)代表 習田氏  
 ボランティアセンター湘南「ハート&ハート」副代表 及川氏・森氏(奥から)

茅ヶ崎市では、複合的な課題や制度のはざ間にある課題にいち早く対応するために、平成22年度から「コーディネーター配置事業」を展開。地区社協が運営する「地区ボランティアセンター」、茅ヶ崎市社会福祉協議会、福祉相談室(茅ヶ崎市独自)からコーディネーターを選出し、その3者がチームを結成し、「地域のつなぎ役」として地域のさまざまな団体と協力しながら地域課題に取り組んでいます。定期開催される「地区支援ネットワーク会議」ではそれぞれが受けた相談のうち対応が困難なケースについて情報共有するとともに、3者それぞれの強みを生かしながら、課題解決に向けて検討します。「発見した人をそのままにせず、さらには地域の担い手へ変えていく」というお話は非常に印象的でした。



茅ヶ崎市社会福祉協議会 加藤職員・茂木職員



**茅ヶ崎市湘南地区 支援ネットワーク会議**



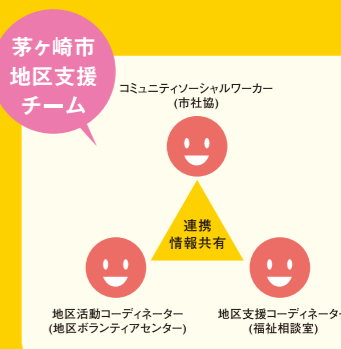
**茅ヶ崎市湘北地区 支援ネットワーク会議**



**茅ヶ崎市小和田地区 支援ネットワーク会議**



今回視察した茅ヶ崎市の地区ボランティアセンターの仕組みに、多くの参加者が関心を寄せました。掃除や買い物代行などの生活支援活動を中心に行われていますが、利用できる人や料金は地区ごとに異なります。利用者・スタッフ双方の声を聞き、常に地域を見つめて活動しています。3つの地区支援ネットワーク会議は終始和やかな雰囲気、「こういう会議もありがたんだ」と驚きました。また、話し合いを重ねていくことで共通認識や信頼関係が生まれ、住民だからこそ、専門職だからこそ知っていること・知らないこともしっかりと共有できていると感じました。会議を通じて、不登校や認知症、近隣問題など、地域のさまざまな問題をいろいろな立場から見守り続けている様子がよく分かりました。支援を受けていた方がボランティア側にもまわるなど、支え合う循環も生まれています。



★第6講★ 講座を振り返り、地域活動・ボランティア活動について考える

視察したいずれの活動も、支えになっていたのは「住民」でした。人が社会とつながり、まわりから認められ、地域社会の一員として尊ばれることは、生きていくための条件です。同じ地域に暮らす者同士だからこそ分かることがあります。あなたの思いと活動が目前の人を生きやすくし、世の中を変えていきます。この視察で体験した取り組みを参考に、あなたの地域でも始めてみましょう。(講師のまとめから)



★ 近隣地区の先駆的な活動の現地視察を重ね、課題把握の視点や活動の工夫、地域人材の発掘や育成ノウハウなど多くのことを学びました ★

2018年				2019年					
福祉の実情を知る		多様なサロンのあり方と役割を学ぶ		住民の相談を地域で解決するための情報共有・連携の仕組みを学ぶ		現地視察を振り返る			
第1講	第2講	第3講	第3講	第4講	第5講	第6講	第6講		
10月24日(水) 開校式 講演	11月12日(月) 実践者から学ぶ① 神奈川区大町・七島地区、 菅田地区の地域活動者	11月23日(金) 視察① 神奈川区:カフェ七島みなみ (町内会館)	12月7日(金) 視察② 菅田南町あおぞらサロン(自営業庭園)・ なごみていサロン(サービス付き高齢者向け住宅)	12月14日(金) 視察③ あおぞらサロンはら (個人宅ガレージ)	1月15日(火) 実践者から学ぶ② 茅ヶ崎市内地区ボランティア センター、茅ヶ崎市社協	1月16日(水) 視察④ 茅ヶ崎市湘南地区 支援ネットワーク会議	1月25日(金) 視察⑤ 茅ヶ崎市湘北地区・小和田地区 支援ネットワーク会議	1月28日(月) 講演 演習 閉校式	1月28日(月) 交流会